B 122　法衣の構成研究（第9報）　台湾の法衣について。

筑紫女学園短大　保刈　禎子

目的　前報に同じ

方法　前報に同じ

結果　袈裟の下に着用する「衣」について調査した。

「衫褲」作務及日常着として着用，上下二部衣で，日本，韓国共に同種の衣を着る。色は灰色が多く白も用いる。材質は化繊又は木綿を使用する。

「籍漢衫」七分丈又は着丈のコート状の衣で，外出又は人と会う時に用いる衣である。

1947年（民国36年）太虚大師が設計したものと云われている。色は黒，灰色，等を用い，材質についても特別の制限はない。中国服の型に僧の衿型を組合せたもの。

「海青」礼拝等の仏教儀礼の際に着用するもので一般的には黒を用いるが，最高儀礼の場合又は導師となった僧は黄色の海青を着用した上に，赤の25条の袈裟をつける。

台湾仏教は道教との混淆が自然に行なわれ，同一寺院の中に両者が祭られていることがある。日本及び韓国の「法衣」が中国唐代に始められた「長衫」「直裰」の型を伝えているのに対して，台湾の「海青」は中国元朝（1271年～1368年）に流行した道服の型に似ている。伝統を守り戒律の厳しい宗教の「衣」が他の宗教と共存する場合には「衣」の交流も又自然に発生するものであろう。